

You're ready to do things
on your own!



Take your first step



スマイル
Smile!

親を頼れないすべての子どもが 笑顔で暮らせる社会へ

2026

協賛・協力企業のご紹介

子どもたちの未来と社会を「つなぐ」ために
～ 社員とともに歩む

ブリッジフォースマイルとの活動 ～

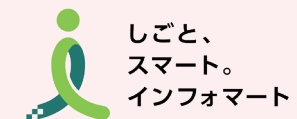
ブリッジフォースマイル様との取り組みは、当社の理念とビジョンの中にもある「つなぐ」「社会をより良く」に準じた活動になります。

2024年から実施してきた「ジョブプラクティスセミナー」では、児童養護施設や里親家庭の子どもたちを対象に、プログラミング体験やオフィスツアー、社員とのランチ交流を通じて働くことのリアルを感じてもらいました。

また、親を頼れずに育った若者たちが登壇するワークショップ「コエールセミナー」では、延べ75名の当社社員がボランティアとして参加し、若者たちの現状を社会課題として考える貴重な学びの場となっています。

今後も、子どもたちが将来を前向きに描くきっかけとなる場の提供を引き続き支援させていただくとともに、当社社員にとっても、子どもたちの未来に寄り添うことの大切さを学ぶ機会となれば幸いです。

ブリッジフォースマイルの皆様の、日々の献身的なご尽力に心より感謝申し上げます。引き続き皆様と共に歩み、子どもたちの可能性を広げていけることを願っております。



株式会社インフォマート

株式会社インフォマートは、「世の中に役立ち喜ばれる事業を通じて社会に貢献する」を理念とし、企業間取引をデジタルで繋ぐ「BtoBプラットフォーム」を運営しています。受発注や請求書などの業務を効率化するクラウドサービスを通じ、企業のDX推進を支援しています。



代表取締役社長
木村 慎(きむら しん)様

ブリッジフォースマイルの3つの活動

① 親を頼れない子どもたちの 巣立ち支援

巣立ち後の生活を支援

居場所事業	身近な理解者との繋がりをつくるいつでも立ち寄れる場所
アトモプロジェクト	情報提供で孤立を防ぐ 同じ境遇の仲間と集うイベント
自立ナビゲーション	気軽に相談できる機会をつくる マンツーマンサポート
相談支援	LINE や電話での相談、役所への同行サポート
日常生活サポート	家事や金銭管理などのサポート
奨学金支援プログラム	定期的な面談を行う給付型奨学金
スマイリングプロジェクト	メンター併走制度付きシェアハウス事業、ショートステイ

巣立ち前の準備を支援

巣立ちプロジェクト	高校3年生のための一人暮らし準備セミナー
トドクン	ポイントをためて生活必需品をそろえる
自立支援セミナー	社会人から楽しく学ぶ 自立に向けた体験型セミナー
ジョブプラクティス	働くイメージを描く仕事体験

② 巣立ちをガイドする 伴走者の育成

スキルアップ研修	子どもを支えるボランティア向けの研修
児童養護施設職員・里親向けセミナー	支援に携わる大人向けのセミナー・勉強会

③ 子どもを支える社会をつくる 広報・啓発活動

コエール	親を頼れない経験を当事者が語るスピーチイベント
調査・研究	全国児童養護施設 退所者トラッキング調査



在園中から卒園後までの支援を共に

児童養護施設 三春学園
児玉 祐子(こだま ゆうこ)さん
職業 児童養護施設職員
趣味 旅行に行くこと
笑顔のもと 旅行の計画、おいしいご飯、十分な睡眠



三春学園は、横浜市金沢区にある横浜市立の児童養護施設です。子どもたちは6つのブロックに分かれて生活をしています。学園の周りには大きな公園や海などがある自然豊かな環境で、園内ではリスやハクビシンなどを見かけることもあります。

三春学園に異動した当初はブロック担当職員として子どもたちと過ごし、現在はファミリーソーシャルワーカーや自立支援担当職員として働いています。卒園した子どもたちとつながりを持てることは、職員としても大きな喜びだと感じています。公立の施設なので数年ごとに職場の異動がありますが、公立の施設なので数年ごとに職場の異動があり、職員がいつまでも学園にいることはできません。卒園した子どもたちが何か相談したい時に学園に来て、知っている職員がいらない、という状況がどうしても発生してしまいます。そんな三春学園にとって、B4Sがアフターフォローを並走してくださることは、非常に心強いことだと思っています。園内でのセミナーや出張居場所など、様々な企画を計画してくれ、在園中から子どもたちとのつながりを作ってくれています。卒園した後は、イベントへの招待やカフェでの相談など、その子それぞれに合ったやり方で支援をしてくださっています。今後も、子どもたちの在園中から卒園後までの支援を、一緒に担っていただけたらと思っています。

B4Sの支援活動は絶対に必要だと信じている

松尾 圭祐(まつお けいすけ)さん
ニックネーム まっちん
職業 輸送機器メーカー勤務
趣味 音楽、ラジオ、ギター
笑顔のもと 睡眠、ライブ鑑賞



会社員として忙しい日々を送る中で、いつからか仕事以外のところでも困った人の役に立つことをしたいという思いを抱き、2021年にB4Sにボランティア登録をして以来、「巣立ちプロジェクト」「コエール」「居場所事業」などいろいろな活動に参加しました。5年間の活動の中で「子ども・若者や社会の役に立てた！」と自信を持って実感できたことは少ないかもしれませんが、活動すればするほど、B4Sが向き合っている社会問題はとても複雑で難しいことを痛感しますが、それでも前向きに関わりたいと思える理由は、B4Sの活動そのものが広い目で見て絶対に必要だと信じているから。そして大小問わず「社会のために何かできることをしたい」という思いを持った素敵な方々に出会えるからです。また、多彩な価値観や人生の歩みに触れたことで、自分の中の「普通」という言葉がとても狭い意味合いだったと気づいた経験も印象深く、B4Sに関われたおかげで得られたパワーや学びが沢山あります。すべての子ども・若者が心穏やかに暮らせる社会に「一歩ずつ近づけるよう」これからもB4Sの活動を楽しみながら自分ができることを続けていきたいです。

Interview

自分が変われば周りも変わる 今は未来に向けて学ぶ時

里親家庭で育ったなち(21歳)。
つらい時期もありましたが、今は美大で精力的に学び、将来に備えています。

ブリッジフォースマイルで得た自立の知恵とつながり

5歳から里親家庭で育った私がブリッジフォースマイル(B4S)に出会ったのは高3の時です。児童相談所(児相)の自立支援担当者から、「勉強になるから参加してみたら」とB4Sの巣立ちプロジェクトを紹介してくれました。

それまでも児相関連のイベントで似たような境遇の子どもたちと交流したり自立準備について教わったりする機会はありませんでしたが、里親家庭が中心だったためか教わることは進学のための奨学金制度など金銭面の支援制度についてがほとんどでした。交流も里親同士が互いの抱える問題などを話し合うことがメイン。子どもはその間、楽しく遊んでいない、という感じてあまり深い話はしませんでした。

巣立ちプロジェクトに参加を決めた直接の理由は、最後まで参加すればスーツがもらえる、と言われたことでしたがいろいろな人ともつながってみたいという気持ちもありました。

月1回、半年間の巣立ちプロジェクトでは、毎回決まったテーマで講師や先輩方の話を聞いた後互いに話し合ったり。奨学金などの制度だけではなく日常の金銭管理や健康管理、仕事でトラブルが起きた時の対応、契約を結ぶ時の注意点、困った時に頼れる場所など、日々の生活に密着した自立の知恵をたくさん学びました。自立して実際に困る前に、社会に出ればこんな困りごとがあるんだ、そのときはこうすればいいんだ、ということを知ることができたのは大きかったです。『60のヒント』という分厚い教科書みたいな本(※1)もいただき、大切にしています。

私はオンラインでの参加でしたが少人数ごとのブレイクアウトルームでおしゃべりをする時間もあり、そこで趣味の合う子や大人のサポーターさん(社会人ボランティア)と親しくなるこ

ともできました。その後、クリスマス会やバーベキューで再会して声をかけ合ったり、SNSなどで今もゆるくつながっている人もいます。

美大進学後もB4Sの自立ナビを利用して2年間、マンツーマンのサポートを受けました。担当するサポーターさんは、こちらの希望を聞いた上で話が合いそうな人をマッチングしてくれました。家とも大学とも違う場所で大人のひととゆっくり話せる時間は楽しいものでした。

今はまだ里親家庭で暮らしていますが、大学卒業後は一人暮らしになります。B4Sで学んだこと、知り合った人たちは、私にとってこれからの人生の支えのひとつになると思っています。

大学では、アートの世界とビジネスの世界をどう結びつけるか、複雑化する社会問題にアートの役割がどうかわかっていけるかなどを中心に学んでいます。幅広い勉強ができる大学なので、アート関連はもちろん、民俗学や幾何学、さらにアイヌ語、フラメンコ、スピリチュアルっぽい体の使い方の講義等々、興味のおもむくままに学んでいます。いま特に関心があるのは言語哲学。大学の課題以外でも興味のある分野の勉強をしたり、小説を書いたりも。パレードのサークルでフロート作りやダンスも楽しんでいます。

卒業後は就職か大学院進学かで迷っていますが、進学の場合、学費は奨学金などで賄えても、学びながら生活費を稼ぐ必要があるのが大変ですが、就職するにしても働くこと自体を目的にはしたくない。今はとにかくいろいろなことを学んで、自分に何ができるか考える時期だと思っています。

美大の学生は社会人経験者もいて年齢もバラバラ、やりたいこともバラバラで、みんなどこかへんなんです。だから多少人と違う部分があっても全然特殊だと思われない。私の境遇も話してもいいなと思う相手には話していますが、それでどうということもない。そんな環境のせいもあるのか、進路についても、最終的にはどうにかなる

だろうって思っちゃうんです。どんな道を選ばせよ、きちんと自分の力で生きていくつもりです。

つらい時こそあえてポジティブに

ポジティブな性格だねって言われることもありますが、もともとはネガティブな人間だと思います。

小中時代は特につらい時期でした。自分の境遇に思うところもありましたし、周囲ともうまくいかないことがあって。ある意味、社会の難しさを知った時期だとも言えます。中学時代は全然学校に行けない期間もあって、卒業できるか不安でした。幸い行きたい高校が見つかった、なんとかになりました。

当時、身にしみて感じたのは、よくよくしているとつけどまられる、自分がネガティブになっていると何事もうまくいかなくなる、ということ。一方、私の中にはすごく負けず嫌いな部分があつて、こんな状況に負けたくない、絶対折れたいするものかかって強く思っていました。

つらい時に無理して笑う必要はないけれど、あえてポジティブにふるまうことで、状況を変えることができる。自分が楽しくしていれば周りも明るくなるし、周りが笑顔になれば私もうれしくなる。ならば、そのためにどうすればいいか。結局、自分が楽しくなるためには、自分で楽しいと思えるようにするしかないんです。

今でも夜などにくよくよしちゃうことはありますが……。自分を、そして周りを変えたいと本気で思えば、きつとなんとかないと信じています。

※1『巣立ちのための60のヒント』施設から社会へ羽ばたくあなたへ』林恵子(編著) NPO法人ブリッジフォースマイル(明石書店) 購入は当団体HPから

ニックネーム なち
職業 大学3年生
趣味 音楽、写真、読書など
夢中になっていること 今はイラスト描き
笑顔のもと 周りの人々の笑顔